

別紙

前年度の温室効果ガスの排出の量及び排出削減計画に基づき実施した措置の状況

氏名	(法人にあっては名称) 中国電力株式会社		住所	(法人にあっては主たる事業所の所在地) 〒730-8701 広島県広島市中区小町4-33	
本票作成	部署名：環境部門（地球環境グループ）				
主たる業種	分類コード	33	業種名：電気業		
事業の概要	電気事業 従業員数：1,526人（平成29年3月末現在）				
県内の主な工場等	番号	工場等の名称		所在地	
	①	玉島発電所		倉敷市玉島乙島字新湊8253番2	
	②	水島発電所		倉敷市潮通1丁目1番地	
	③	岡山支社		岡山市北区内山下1丁目11番1号うちさんげ電気ビル内	
	④	岡山計算センター		岡山市北区津倉町2丁目2番2号	
	⑤	岡山電力所		岡山市南区福成3丁目4番11号	
⑥	倉敷営業所		倉敷市中庄2293番地の2		
特定事業者の該当要件	<input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kℓ以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input checked="" type="checkbox"/> ③CO ₂ 換算3,000t以上 (●工場等の数 35 所 ●車両台数 (②該当の場合) 台)				

温室効果ガス排出量	基準年度(平成 24 年度)	(平成 28)年度排出量	目標年度(平成 29 年度)
	328,000 t CO ₂	294,000 t CO ₂	324,000 t CO ₂
主な工場等の排出量	番号	工場等の名称	(平成 28)年度排出量
	①	玉島発電所	175,000 t CO ₂
	②	水島発電所	106,000 t CO ₂
	③	岡山支社	1,570 t CO ₂
	④	岡山計算センター	2,130 t CO ₂
	⑤	岡山電力所	1,730 t CO ₂
⑥	倉敷営業所	981 t CO ₂	

削減目標の達成状況	計画期間：平成 25 年度 ～ 平成 29 年度 (5 箇年度)			
	<input type="checkbox"/> 総排出量基準	(28)年度削減実績	目標削減率	目標達成
	<input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準	5.7 %	4.9 %	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達

(原単位基準の削減目標を選択している場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容 販売電力量 (岡山県)	原単位当たり排出量		
		基準年度	(28)年度	目標年度
		0.0192 kg CO ₂ /(kWh)	0.0181 kgCO ₂ /(kWh)	0.0183 kgCO ₂ /(kWh)

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク指標の状況	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値(平成 28 年度)	達成率等
	電力供給業	A:1.00かつB:44.3% 以上	—	—

【削減状況の自己評価】

- 基準年度（平成24年度）と比較し、電力のCO₂排出原単位悪化に伴う温室効果ガスの増加要因はあったものの、水島発電所および玉島発電所の発電電力量の減、さらに玉島発電所1号機の燃料転換工事（石油のみ→石油もしくはLNGが使用可能）に伴い、両発電所の所内電力に関するCO₂排出量が減少したこと等により、温室効果ガス排出量は減少した。
- その結果、原単位は基準年度比で5.7%減少した。

【推進体制】

- 社長が環境管理の最高責任者として全社の環境管理を統括し、環境部門長が全社環境管理推進者として運用管理を実施。
- 各事業所等では、事業所等の長が環境管理を統括し、環境管理推進者(副所長クラス)が中心となって環境管理活動を推進。
- 環境管理活動は、全社的な環境管理の仕組みを定めた「環境管理規程」および「環境管理取扱細則」に基づいて、各事業所において着実に実践。
- これらの取り組みは年2回開催される全社環境委員会にて報告され、全社の環境問題への取り組みに関する重要な方針・施策について審議する仕組み。さらに、2010年から、環境部門長をエネルギー管理統括者とした体制も整備。

【目標削減率達成のために実施した措置及び今後の取組】

工場等の名称	実施した措置及び今後の取組の内容
(平成28年度実施分) 全社	(平成28年度実施分) ○「エコ・オフィス実践行動プラン」※に基づいた取り組みの結果、当社(グループ会社含む)のオフィスにおける電気使用量を平成25～27年度の平均使用量に比べ、平成26～28年度は3.8%低減した。 ※以下取り組みを当社グループ全体で展開 <ul style="list-style-type: none"> ・空調設備の機器更新および稼動時間の制限。 ・照明の部分消灯、LED化、不要時消灯徹底。 ・温水洗浄便座の暖め、温水機能の停止。 ○高性能ガス回収装置使用による、遮断器点検・取替時のSF6ガスの排出抑制および再利用を実施し、平成28年度の回収率は弊社全体として、点検時99.3%、廃棄時99.5%となった。
(今後実施予定分) 全社	(今後実施予定分) ○安全確保を大前提とした原子力発電の活用、再生可能エネルギーの導入拡大、火力発電の高効率化、クリーンコールテクノロジーなどの技術開発、お客さまへの省エネルギー方策の提言などにより、温室効果ガスの排出抑制に努める。 ○当社グループで「オフィスでの電気使用量を2020年度までに2010年度比で20%以上低減」することを目標に掲げ、目標達成に向けて引き続き取り組む。 ○再生可能エネルギーの更なる導入拡大の一環として、日本初となるハイブリッド蓄電池システムによる実証事業「隠岐ハイブリッドプロジェクト」を実施中。

【森林保全等吸収源対策への取組】

県内での取組	有	吉井川・高梁川の上流に水源涵養林を保有し、枝打ちや間伐など適切な維持管理をしている。
その他	有	広島県の太田川の上流に水源涵養林を保有し、枝打ちや間伐など適切な維持管理をしている。

【再生可能エネルギーの導入】

県内での取組	有	再生可能エネルギーによる発電設備の接続申込みに対する手続きを速やかに行うとともに、計画的に系統連系工事や系統連系に伴う設備対策工事を実施するなど、導入拡大に取り組んでいる。
その他	有	平成28年3月から、当社で99箇所目の水力発電所として芸北発電所(430kW)の営業運転を開始。また、再生可能エネルギーの更なる導入拡大の一環として、日本初となるハイブリッド蓄電池システムによる実証事業「隠岐ハイブリッドプロジェクト」を実施中。

【その他特記事項】

- 供給安定性・経済性に優れる石炭火力を将来にわたって活用していくため「高効率化」と「クリーン化」に資する技術として、電源開発(株)と共同で設立した大崎クールジェン(株)により石炭ガス化燃料電池複合発電(IGFC)を目指した取り組みを実施している。なお、本事業は経済産業省補助事業および国立研究開発法人 新エネルギー産業技術総合開発機構(NEDO)助成事業として実施。
- 地球温暖化防止に向けて、民生部門の取り組みがますます重要になっていることを踏まえ、「エコ・オフィス実践行動プラン」・「エコ・ライフ実践行動プラン」により、日常業務・生活に密着した省エネルギー、省資源・リサイクル活動を中国電力グループ全体で展開している。
- CM放送やホームページで省エネ・節電PRを実施しており、最新の省エネ家電に関する情報や省エネ・節電の手法・アイデアを紹介している。